

平成28年 4月25日

鹿児島大学病院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院麻酔科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

小児腹腔鏡下ヘルニア根治術における、鎮痛法の違いによる術後痛への影響（後ろ向き研究）

【研究機関】

鹿児島大学病院 麻酔全身管理センター 麻酔科

【研究責任者】

麻酔科 教授 上村 裕一

【研究の目的】

小児鼠径ヘルニア手術は術後の慢性痛への移行が報告されており、近年、鎮痛法も末梢神経ブロックが多用されるようになっています。小児腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術における鎮痛法の違いが術後痛へどのような影響を及ぼしているか検討します。

【研究の方法】

平成24年～平成27年に鹿児島大学病院で腹腔鏡下鼠径ヘルニ

ア根治術を受けた患者さん（16歳以下）を麻酔記録上で検索し、硬膜外麻酔及び、末梢神経ブロックで鎮痛を受けた症例の術後痛への影響を比較検討します。

●対象になる患者さん

平成24年～平成27年に鹿児島大学病院で腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術を受けられた16歳以下の患者さんを対象にしています。

●診療録（カルテ）から利用する情報（以下の情報を利用します。）

身長、体重、年齢、術後鎮痛薬の使用回数、初回鎮痛薬使用までの時間、手術中フェンタニル、レミフェンタニル使用量。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科侵襲制御学分野 用途特定寄附金で実施します。この研究に対する企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 麻酔全身管理センター 麻酔科

教授 上村 裕一

電話 099-275-5430 FAX 099-265-1642